

実現する夢

人は、それぞれ夢や希望を、自分の「欲望」で語るものです。

本来夢は、周りと相手で社会を良くする中にしかない。それ以外はすべて「欲」の白日夢である。

夢の姿は、社会を良くする中で見出す筈。

また欲を追いかけて過ぎると、過ぎたるは及ばざるが

ごとし。飲込まれ、かけがえ無い実には多くの大切なものを失う。

自分で聞こえない内なる声を感じ、正直に、自分が信じるやり方で、自分の積極的なルールに従う。

そうでない限り、夢を見、経験語る資格はないと思うのである。

日本でも、正直の頭に神宿るといふ。素直で謙虚で正直にである。

多くの失敗を重ね、これらを謙虚に学び、生かす中で失敗が活きてくる。それは小さな失敗をどれだけ多く経験するかで、確実なものがないとなく浮かび上がるもの。成功はその一部。「失敗」を受け入れることでより多く学ぶものだ。

時勢は手中にある？。大概を忘れ準備を怠りやらないことが、失敗でないでしうか。運は、運ぶとも言う。

自分で果敢に実行し静かに掴み、静かに離れるもの。

人に役に立ち、迷惑をかけるだけである。遥かなる夢に挑戦するだけである。

古来日本では利益のことを糟粕（そうはく・かす）と言います。利益は後からついて来るもの・・・だ。

夢は何のため、誰のため、理想は何。目的意識があれば問題意識、危機意識、当事者意識の三つが生まれる

遠くをはかるものは富み近くをはかるものは貧す

それ遠きをはかる者は百年のために杉苗を植う。

まして春まきて秋実る物をおいておや

故に富有なり。

近くをはかる者は春植えて秋実る物をも尚遠

しとして植えず

唯眼前の利に迷うて

が、権利意識に敏感に声を挙げるのが人の常である。

三つの中で一番低いのが危機意識です。

労働力を感じる感覚では弱いものです。

どんな組織でも属する限り、それは「運命共同体」企業は働く場「城」である。

目的意識の欠如は、忠実で無責任な、ロボットや機械と変りない。

すでに「落城」したと同じ、目的が欲なら「城」も「国」も存続の意味はなんでしょう

うか。幸せの志を共有して、実行し夢が実現する。

まかずして取り 植えずして刈り取る事のみ眼につく。

故に貧窮す。―二宮尊徳が残した言葉。

二宮尊徳

現代は三方よしの売り手よし、買い手よし、世間よしから、一つ増えた天よしの、四方よしと言われている。

継続は力。明日以降に種をまき続けると、結局は顧客の満足と生産性の向上につながると信じる。

確実なものは過去。今がすでに

性である。



本来の姿

全て、どんなものにも本来あるべき姿がある。自然界を見れば、存在自体が適応した証明でしょう。

社会で本来あるべき姿は「強さと優しさ」です。

たくましさとも言うべきでしょう。

多くの「たくましい」会社の存在が、社会に役立つのである。

自己の利益にこだわらず、相手や人を犠牲にすることはない。本来優しさが「資本」であるべきです。

独善で理不尽な行動は、根本的に間違いやすい。

に過去である。今を大切にすることは、過去が未来と表裏一体だからだ。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2013年3月21日 (水) NO. 294

地域から明るい未来を作ろう